

パワーアップ研修会

「養護教諭が中心となって進める 教職員研修～交流を通して深めよう～」

「令和4年度パワーアップ研修会」を、令和4年10月11日（火）午後3時30分よりオンラインで開催しました。参加者は53名でした。2人の先生の実践発表後、ブレイクアウトルームを活用してグループごとに教職員研修の進め方を協議したり、工夫している点や苦勞している点などについて交流したりしました。

<実践発表1>

「養護教諭が中心となって進める教職員研修 ～救急処置～」

京都市立柘野小学校 奥村 妙 先生

○苦勞したこと

- ・学校行事や働き方改革などの取組もあり、教職員研修の時間確保が難しい。
- ・習得してほしい知識や伝えたいことを詰め込むと、研修時間が長くなる。



○工夫したこと

- ・校内で既に開催されていた若手研修を活用して、救急処置に関わる研修を行うことにした。
- ・学校の実態に合わせて具体例を挙げながら、来室理由に多い頭部外傷について、観察してほしいことや、保護者へ連絡する内容などを研修内容に入れた。

○教職員からの意見や感想

- ・具体例や資料があったので分かりやすかった。
- ・中堅の教職員から、若手だけでなく全教職員に向けて研修を行った方が良いという声が聞かれた。
- ・救急処置に関わる研修の後に、体育部と連携し、水泳学習前の危機管理対応研修を開催することができた。



<実践発表2>

「養護教諭が中心となって進める教職員研修

～生活習慣の確立（睡眠について）～」

京都市立蜂ヶ岡中学校 竹野 千恵里 先生

○苦勞したこと

- ・時間内で効果的な研修会にするために、課題設定や内容構成に悩んだ。
- ・健康教育の内容について、自分事として捉えてもらうことが難しかった。



○工夫したこと

- ・年度当初に校内委員会でテーマ設定を行い、校内の年間計画に入れた。
- ・前年度、課題に挙がった生徒の自己肯定感の低さについて教職員に共通理解を図り、自己肯定感を高めるために睡眠の大切さについて養護教諭の専門性を活かして提案した。



○教職員からの意見や感想

- ・睡眠の大切さについて家庭や生徒に働きかけるために、研修内容を学級だより等に載せたい。
- ・懇談資料の中に睡眠と学力との関係性を示すグラフを掲載し、担任から保護者に働きかけたい。

<グループ交流・協議>

- ・研修会を計画する際には、健康教育部に協力を得たり、学校保健委員会の時間を使ったりしていることが交流できて、参考になった。
- ・資料を用意する際には、過去の公募研究の冊子や日本学校保健会が発行している資料などもとても参考になり、活用しやすい。その際、情報が古くないかを確認することも大切である。

<参加者からの感想>

- ・一人で研修会を計画したり内容を考えたりすることは、大変だと思っていたが、実践発表を聞いて組織的に動くこと、できることから始めることの大切さを感じた。
- ・グループ交流の中で、養護教諭が苦勞していること、工夫していることを聴くことができて、小さなことを積み重ねていけばよいのだと実感した。